

歴史研究会創立60周年記念出版事業  
珠玉随想録『わが人生の誇り』

## 回顧・歴史研究会と私

(横山忠弘著作集・横山忠弘著作集(II)の出版)

### 一、歴史研究会入会のきっかけ

それは実兄邦治が『近世歴史伝記小説を発掘する』を歴史読本10月号(第34巻・第19号・1989年・平成元年)に載せたことに始まる。奇しくも、同誌には斉藤守弘さん(元神奈川歴史研究会副会長顧問・故人)の『多頭竜蛇神と土蜘蛛の時代』が載っていた。一方、私は、昭和63年に日本住宅公団改組の住宅・都市整備公団から(財)住宅管理協会へ出向となったが、吾が身の今後の処し方として、実兄邦治が『歴史研究会』への入会を勧めたのである。

### 二、歴史研究会全国大会を通じての交流から得たもの

私は歴史研究会に平成4年4月入会以降、先ず次の通り歴史研究会全国大会に出席して、全国歴史研究会会員相互間に於ける交流を深めてきた。全国大会における講演会への出席から得た感銘、見学した近辺の名所旧跡等から得た豊富な知識の蓄積等々、歴史研究会全国大会から私が得たものは、限りなく量り知れないものであった。

- 歴史研究会第10回全国大会大阪大会(平成五年七月一〇日～一二日)
- 歴史研究会第12回全国大会山口大会(平成七年九月一五日～一七日)
- 歴史研究会第15回全国大会東京大会(平成一〇年一〇月二日～三日)
- 歴史研究会第16回全国大会東京大会(平成一二年七月一日～二日)
- 歴史研究会第17回全国大会水戸大会(平成一三年十月一九日～二一日)
- 歴史研究会第18回全国大会阿波徳島大会(平成一四年十月五日～七日)
- 歴史研究会第19回全国大会兵庫大会(平成一五年一一月八日～一〇日)
- 歴史研究会第20回全国大会東北盛岡大会(平成一六年八月二八日～三〇日)
- 歴史研究会第24回全国大会出雲大会(平成二〇年一〇月二四日～二六日)
- 歴史研究会第25回全国大会首都圏大会(平成二一年一〇月二三日～二五日)
- 歴史研究会第26回全国大会紀伊田辺大会(平成二二年一〇月二三日～二四日)
- 歴史研究会第27回全国大会岡山大会(平成二三年一〇月二一日～二三日)

### 三、神奈川歴史研究会新年特別講演会招聘講師を通じての交流から得たもの

私は神奈川歴史研究会理事事務局長に就任以降の平成二二年から、神奈川歴史研究会の新年定期総会に新年特別講演会と新年宴会を組み合わせることにした。その実績は次のとおりである。講師の講演、

その後の各歴史研究会との交流から得た歴史事象の知識涵養には計り知れないものがあった。

○新年特別講演会（平成二二年一月一七日（日））

講師 横浜歴史研究会理事 堀江洋之 氏

演題（日本の神仏分離・廃仏毀釈思想—その源流を水戸藩に探る—）

○新年特別講演会（平成二三年一月十六日（日））

講師 常総歴史研究会世話人代表 立川誠一 氏

演題（桜田門外の変を検証する）

○新年特別講演会（平成二四年一月一五日（日））

講師 横浜歴史研究会会長 加藤導男 氏

演題（苗字の歴史あれこれ）

○新年特別講演会（平成二五年一月二十日（日））

講師 中国の歴史と文化を学ぶ会会長 三堀八郎 氏

演題（幕末経済史）

○新年特別講演会（平成二六年一月十九日（日））

講師 横浜歴史研究会常任理事 丹下重明 氏

演題（歌に生きた僧・西行）

○新年特別講演会（平成二七年一月十八日（日））

講師 横浜歴史研究会 齊木敏夫 氏

演題（藤末鎌初に活躍した仏師、運慶、快慶）

○新年特別講演会（平成二八年一月十七日（日））

講師 江戸の歴史研究会副会長 川崎克美 氏

演題（神奈川県三重塔と五重の塔）

○新年特別講演会（平成二九年一月一五日（日））

講師 現神奈川歴史研究会会長 竹村紘一 氏

演題（ミッドウエー海戦の敗因を探る）

#### 四、『横山忠弘著作集』発行の経緯

私は平成二七年八月に、基本的には総合出版社歴研発行の『歴史研究』特集に投稿して同誌に掲載された平成八年六月から平成二五年一月間における私の論文集を総合出版社『歴研』から『横山忠弘著作集』として出版した。これは歴史項目五十五編、特別収録三編から成っている。以下はその発行に至る経緯の概要である。

##### （1）『歴史研究』誌と私

私の自室の本箱には『歴史研究』誌第186号～第331号までは飛び番で、第347号～第371号までは連番で、それぞれ先輩会員の方から戴いたもの、第372号～第657号までは、私が『歴史研究会』に入会して購入し続けた、勿論連番の『歴史研究』誌がある。

##### （2）『歴史研究』特集への私の投稿

『歴史研究』では毎号に涉って、“「テーマ特集」を企画しております。ふるって原稿をお寄せ下さい”としていたので、手初めに私が「テーマ特集」に投稿した第1号は、第428号の『特集毛利元就の謎』であった。この投稿原稿はその時は所謂没原稿になったが、そこから平成25年1月までの間の『歴史研究』

発行回数181冊中、私の『特集』への投稿回数は50回、うち採用38篇、不採用12篇であった。しかし、その不採用になった12編も、『歴史研究』の「史談往来」とか、私が所属する「横浜歴史研究会」の会誌「歴研よこはま」誌上、「中文会」の会誌「ちゅうぶん」誌上、或いは「神奈川歴史研究会」の会報月刊「歴研神奈川」誌上の何れかに掲載されており、総ては陽の目を見ている。なお、本書の冒頭の「1、壬申の乱と私の歴史観」は、「歴史研究会」及び私が所属する「歴史研究会」所属の「地域歴研」・「テーマ歴研」を含め、私が歴史書として発表した第1号であり、内容も通史的であったので、(1)として最初に掲載させて戴いた。以下、番号は『発行年次順』としている。

- 1 壬申の乱と私の歴史観—「渡来文化」創立満10周年記念誌・平成8年6月29日号
- 2 毛利元就の謎—名族毛利氏の苗字が永らえた謎。—(『歴史研究』平成9年1月号(第428号))
- 3 北条時宗の時代—北条時宗出現の背景。—『歴史研究』平成13年1月号(第476号)
- 4 蒙古襲来の謎—元寇、勝利の真因と神風史観。—「歴史研究」平成13年7月号(第482号)
- 5 日本史を動かした人物—武士の時代を前倒した白河法皇。—『歴史研究』平成14年1月号  
(第500号)
- 6 鎖国と開国の謎—鎖国と開国は為政者の賢明な選択だった。—『歴史研究』平成15年4月号  
(第503号)
- 7 鎌倉権五郎景正の故地専念寺に史碑建立。—『歴史研究』平成15年11月号(第510号)
- 8 対決の日本史—中巖円月対北畠親房。—『歴史研究』平成15年12月号(第511号)
- 9 幕末維新日本人の夢—吉田松陰と弟子達の夢。—『歴研よこはま』平成19年12月1日号  
(創立25周年記念誌)
- 10 鎌倉幕府滅亡の謎—武家政権は七百年続いた。—『歴史研究』平成16年3月号(第514号)
- 11 新撰組の正体—新撰組のうちげば。—『歴史研究』平成16年6月号(第517号)
- 12 日露戦争の謎—日露戦争の遠因とその後の展開。—『歴史研究』平成16年9月号(第520号)
- 13 源平の世紀—「吾妻鏡」の義経にその時代を見る。—『歴史研究』平成17年1月号(第524号)
- 14 女帝の時代—女帝の時代は歴史の画期だった。—『歴研よこはま』平成22年11月30日号)
- 15 武田一族の謎—安芸守護武田氏の興亡。—『歴史研究』平成17年7月号(第530号)
- 16 20世紀日本人の遺書—曾祖母の昔話と私の戦中・戦後体験。—『歴史研究』平成18年1月号  
(第536号)
- 17 日中歴史問題を考える—日中歴史問題の源流、秀吉の朝鮮出兵—『歴史研究』平成18年3月号  
(第538号)
- 18 後のつく天皇—後がつく天皇と歴史の潮流。—『歴史研究』平成18年6月号(第541号)
- 19 南北朝の内乱—護良親王ここに眠る。—『歴史研究』平成18年9月号(第544号)
- 20 熊谷直実800回忌に子孫集う。—『歴史研究』平成18年11月号(第546号)
- 21 三種の神器の謎—記紀と学術上の三種の神器。—『歴研神奈川』平成20年9月号
- 22 明治天皇とその時代—明治天皇・戸塚宿・柏尾川。—『歴史研究』平成19年4月増頁号(第550号)
- 23 渡来人とは—渡来人から帰化人へ。—『歴研神奈川』平成25年4月号(第239号)
- 24 大田道灌と江戸城—江戸城の歴史、大田道灌から徳川家康へ。—『歴史研究』平成19年10月号  
(第555号)
- 25 女たちの幕末維新—天璋院(篤姫)と静寛院(和宮)。—『歴史研究』平成19年12月号(第557号)
- 26 邪馬台国の新視点—邪馬台国は畿内大和だ。—『歴史研究』平成20年3月増頁号(第559号)

- 27 豊臣一族の謎—秀吉の朝鮮征伐と豊臣一族の崩壊。—『歴史研究』平成20年4月増頁号(第560号)
- 28 安政という時代の謎—安政生まれの曾祖父母の生き様と語伝え。—『歴史研究』平成20年6月号  
(第562号)
- 29 坂東八平氏の謎—今に愛され崇拝されている坂東八平氏。—『歴史研究』平成20年9月増頁号  
(第564号)
- 30 徳川一族の謎—徳川三百年を支えた将軍と幕閣・側用人。—『歴研神奈川』平成23年2月号  
(第273号)
- 31 戦国武将の名誉回復—山中鹿介幸盛の毀誉褒貶。—『歴史研究』平成20年12月号(第567号)
- 32 私の好きな日本の英雄—元寇に勝利した北条時宗。—『歴史研究』平成21年1・2月新春合併号  
(第568号)
- 33 継体天皇の謎—継体天皇の王朝継承。—『歴史研究』平成21年3月増頁号(第569号)
- 34 鎌倉仏教の謎—時宗開祖—遍と四世吞海。—『歴史研究』平成21年4月増頁号(第570号)
- 35 足利一族の謎—足利尊氏・義詮・義満三代の毀誉褒貶。—『歴史研究』平成21年11月号(第576号)
- 36 紀州熊野の謎—紀州熊野と小栗判官・照手姫。—『歴史研究』平成21年12月号(第577号)
- 37 日本史の虚像と実像—朝鮮征伐に豊臣秀吉の虚像・実像を視る。—『歴研神奈川』平成24年11月号  
(第294号)
- 38 天孫降臨の謎—日本神話から日本建国へのアプローチ。—『歴史研究』平成22年3月増頁号  
(第579号)
- 39 平城遷都千三百年—祝平城遷都千三百年。—『歴史研究』(平成22年4月増頁号(第580号))
- 40 吉備の国の謎—記紀、古墳、吉備津神社に視る大和と吉備の王権。—『歴史研究』平成22年10月号  
(第585号)
- 41 細川一族の謎—時代を乗切った文化人細川頼之と細川藤孝。—『歴研神奈川』平成23年5月31日号(第279号)
- 42 戦国三姉妹の謎—苛烈な戦国の世に翻弄された三姉妹。—『歴史研究』平成22年12月号  
(第587号)
- 43 ライバルの日本史・世界史—保元・平治の乱の平清盛と源義朝。—『歴史研究』  
平成23年1・2月新春合併号(第588号)
- 44 日本国家成立の謎—倭国から日本国への道程。—『歴研よこはま』平成23年5月31日号(第66号)
- 45 藤原王朝栄光と陰謀—道鏡天皇を阻止した藤原一族—『歴史研究』平成23年4月号(第590号)
- 46 小早川一族の謎—小早川氏の元祖土肥実平と小早川隆景正室問田の大方—『歴史研究』  
平成23年9月号(第594号)
- 47 赤松一族の謎—足利幕府に寄添ったり反抗したりした赤松一族の消長。—『歴研神奈川』  
平成26年2月号(第381号)
- 48 平清盛の新研究—皇胤平清盛、波乱万丈の生涯を視る。—『歴史研究』平成23年12月号(第597号)
- 49 名誉回復の日本史—田沼意次、松平定信それぞれの名誉回復。—『歴史研究』  
平成24年1・2月新春合併号(第548号)
- 50 創刊600号と私の歴史研究—『歴史研究』と私。—『歴史研究』平成24年4月号(第600号)
- 51 中尊寺金色堂の謎—中尊寺金色堂と奥州藤原氏の栄光と惨劇。—『歴史研究』平成24年5月号  
(第601号)



- 52 松平一族の謎—徳川家康の遠祖は松平氏女婿の遊行僧。—『歴史研究』平成24年6月号(第602号)
- 53 濃尾平野治水の歴史—薩摩島津藩の木曾三川分流工事とその行方。—『歴史研究』  
平成24年9月号(第604号)
- 54 伝説の中の真実—世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の小栗判官・照手姫物語。  
—『歴研神奈川』平成25年2月号(第297号)
- 55 名誉回復の日本史Ⅱ—平将門の名誉回復振りを視る。—『歴史研究』平成25年1・2月新春合併号  
(第608号)

## 【特別収録】わが著作の原点

- 1、直実公の遺徳と栄光を慕った後裔達の足跡。(『熊谷次郎直実・法力房蓮生の研究』熊谷市立図書館・(平成15年3月3日)
  - 2、広島原爆を挟んだ私の戦中戦後体験。(敗戦60年随想録・日本随想録編集(平成17年11月24日)
  - 3、熊谷次郎直実(蓮生)と後裔達。(神奈川歴史研究会月例会200回記念誌『さがみの風』  
(平成17年12月20日)
- (以上)



## 五、『横山忠弘著作集(Ⅱ)』発行の経緯

### (1) 地域歴研『横浜歴史研究会』及びテーマ歴研『中国の歴史と文化を学ぶ会(中文会)』への私の投稿論文

一方において私は次の(イ)、(ロ)のことをも平行して行って来た。

(イ) 平成八年五月に地域歴研『横浜歴史研究会』に入会以降平成九年から毎年一回は同会の月例会に研究発表しており、この研究発表を基にした論文を年二回発行の会誌『歴研よこはま』に投稿し掲載されたが、この論文テーマは『歴史研究』特集テーマに関連するものが多かった。

(ロ) また、平成十二年一月にはテーマ歴研『中国の歴史と文化を学ぶ会(中文会)』に入会して以降、平成十三年から毎年一回欠かさず月例会に研究発表しており、これを基にした論文は年一回発行の会誌『ちゅうぶん』に掲載されたが、これら論文も『歴史研究』特集テーマに関連しているものが多かった。

### (2) 横山忠弘著作集(Ⅱ)の出版

これら(1)(イ)及び(ロ)に係る私の論文は『特集』の論文と違って、概して長文で表や図、写真が多く、論文そのものも、より具体的で迫真性をも兼ねていたのでこれ等の論文を集約したところ、『歴研よこはま』が25編、『ちゅうぶん』が15編計40編となった。しかしながら、これらから既刊の『横山忠弘著作集』との重複、錯綜する編を除き、最終的には40編から19編へと絞込み、この度『横山忠弘著作集(Ⅱ)』として、編集・進行等を神奈川歴史研究会理事武士俣光也氏、出版を総合出版社歴研吉成勇氏

にそれぞれお願いして出版しようとするものである。

- 1、 山内首藤氏と穴戸氏の軌跡—頼朝没後八百年によせて—『歴研よこはま』(平成11年8月(第45号))
- 2、 元寇の勝利と神国思想—『ちゅうぶん』(平成13年9月(中文会創立15周年記念誌))
- 3、 平安律令政権と鎌倉武家政権との相剋—大河ドラマ[北条時宗]によせる—『歴研よこはま』(平成13年10月(第50号))
- 4、 近世日中文化交流史から近現代を展望する—『ちゅうぶん』(平成14年7月(第6号))
- 5、 皇祖呉太伯伝説と天神後裔史観—倭人の起源—『ちゅうぶん』平成15年7月(第17号)
- 6、 昭和天皇と二宮金次郎—歴史上心に残る人物像—『歴研よこはま』平成15年12月(第53号)
- 7、 戦前・戦後の、昨今の私の中国観—『ちゅうぶん』平成17年7月(第18号)
- 8、 日露戦争前後の日米英—日露の戦いとその後の日本—『歴研よこはま』平成16年11月(第55号)
- 9、 開戦時の首相東条英機—大正・昭和前期の難局に生きた人物像—『歴研よこはま』平成17年6月(第56号)
- 10、 好きな人物・嫌いな人物の筆頭、豊臣秀吉の実像—『歴研よこはま』平成17年11月(第57号)
- 11、 変貌著しい靖国神社—私の「靖国神社問題考」—『歴研よこはま』平成18年5月(第58号)
- 12、 倭人から日本人への道程—『ちゅうぶん』平成18年9月(中文会創立20周年記念誌)
- 13、 韓国併合の道程—私の「韓国併合是非論」—『歴研よこはま』平成18年11月(第59号)
- 14、 明治の脱亜・滅亜・興亜各論とその行方—『ちゅうぶん』平成20年7月(第22号)
- 15、 石原莞爾の生涯と満州国—『ちゅうぶん』平成21年7月(第23号)
- 16、 横浜開港百五十年生みの辛酸の道程—横浜開港百五十年—『歴研よこはま』平成21年11月(第63号)
- 17、 戦後の日中関係史—『ちゅうぶん』平成22年7月(第24号)・『ちゅうぶん』平成23年9月(第25号)
- 18、 東アジア世界の中の日本—古代～近代—『ちゅうぶん』平成24年9月(第26号)
- 19、 古代中国・朝鮮・日本と倭族—『ちゅうぶん』平成25年10月(第27号)

(以上)

## 【横山忠弘略歴】(○=単年・●=経年)

○昭和9年(1934) 11月9日、父重邦(24才)母ムツノ(旧姓堀江22歳)の三男として、広島県安佐郡鈴張村2335番地(現広島市安佐北区安佐町鈴張)に生まれる。

○昭和16年(1941) 4月、村立鈴張国民学校入学、同年12月8日、大東亜戦争勃発。

○昭和20年(1945) 8月6日、広島市に原爆投下。8月15日敗戦。

○昭和22年(1947) 4月、新制村立鈴張中学校入学。

○昭和25年(1950) 4月、広島県立可部高等学校入学。

○昭和28年(1953) 4月、私立同志社大学経済学部入学。

●昭和32年(1957) 4月、日本住宅公団入社(昭和30年7月創設、昭和56年10月、住宅・都市整備公団、平成11年10月、都市基盤整備公団、平成16年7月、都市再生機構(UR))

○昭和36年(1961) 12月、賀代子(父宮崎茂・母つや五女)と結婚。

○昭和38年(1963) 2月、長男典弘誕生。

○昭和41年(1966) 5月、長女彌鈴誕生。

○昭和63年(1988) 6月、日本住宅公団改組の住宅・都市整備公団から(財)住宅管理協会(理事)

に出向。

- 平成2年（1990）6月、大塚雄司建設大臣（昭和30年7月からの日本住宅公団職員を経て東京都議会議員、衆議院議員を六期務めて就任）の公団有志主催・大臣就任祝賀パーティに出席。
- 平成3年（1991）6月、（財）住宅管理協会から都市再開発（株）取締役（のち常務）出向。
- 平成4年（1992）4月、実兄邦治の推薦により、「歴史研究会」入会。
- 【実兄邦治略歴】平成7年4月～平成9年3月の間、学校法人武田学園・広島文教女子大学長、平成9年4月～同18年3月の間、中国大連外国語学院、中国大連理工大学客員教授を歴任。その間、大連図書館所蔵の満鉄資料はじめ膨大な書籍群の全貌を明らかにし、平成20年春の叙勲において『瑞宝中授章』を受賞。広島大学文学博士。平成29年10月19日膵臓癌により逝去。享年85歳。
- 平成5年（1993）8月、「渡来氏族と古代東アジアを考える会」入会。
- 平成8年（1996）5月、「横浜歴史研究会」入会。以降平成9年から毎年一回は月例会に研究発表している。また年二回発行の会誌『歴研よこはま』には、殆んど欠かさず投稿、掲載されている。
- 平成11年（1999）3月、都市再開発（株）顧問退職。10月「大正地区歴史散歩の会」入会。後退会。
- 平成12年（2000）1月、「中国の歴史と文化を学ぶ会」入会。以降平成13年から毎年一回発行の会誌『ちゅうぶん』には欠かさず投稿、年2～3回発行の『中文会ニュース』にも殆んど投稿している。
- 平成16年（2004）1月、「神奈川歴史研究会」入会。以降月例会には毎年一回欠かさず研究発表している。又毎月発行の会報「歴研神奈川」への投稿掲載作品多数。
- 平成27年（2015）8月2日、『横山忠弘著作集』を総合出版社歴研（主幹吉成勇氏）から出版。

つづく9月以降12月までに、『歴研よこはま』及び『ちゅうぶん』誌上に掲載された40編の中から19編を選抜し、編集・制作等を神奈川歴史研究会理事武士俣光也氏、出版を総合出版社歴研（主幹吉成勇氏）に依頼した。

- 平成28年（2016）1月、江戸の歴史研究会入会。
- 平成28年（2016）8月1日『横山忠弘著作集（Ⅱ）』を総合出版社歴研（主幹吉成勇氏）から出版。
- 平成29年（2017）9月3日（日）中国の歴史と文化を学ぶ会第246回例会は大田区入新井集會室大会議室で行われた。出席者40名、最初の研究発表は横山忠弘会員による『徳富蘇峰終戦後日記』（頑蘇夢物語）。横山氏は先に「横山忠弘著作集（Ⅰ）・（Ⅱ）」を『歴研』主幹吉成勇氏から刊行しているが、その続編として表題について発表した。蘇峰は『明治、大正、昭和の三つの時代に常に時流に乗って指導的役割を果たした言論人と言われるが、戦後自らの戦争責任を明確にし、すべての役職を退いた。そこで書かれた日記は『なぜあの戦争に負けたのか』を追及している。年表と御厨貴の解説を基に、『日記』を読み解いた。  
（レポート 朝倉宏哉）（歴史研究（第655号）（2017年10月号）106頁から。
- 平成29年10月25日付、横浜歴史研究会会長加藤導男氏、副会長竹村紘一氏あてに、横浜歴史研究会の退会届を提出した。
- 私が、珠玉随想録『我が人生の誇り』と位置付けている『横山忠弘著作集』及び『横山忠弘著作集（Ⅱ）』は既に出版発行されており、これが『わが人生の誇りである』ことには些かも変わりはなく、『横山忠弘著作集』及び『横山忠弘著作集（Ⅱ）』の出版発行は、まさにわが人生の誇りであり、花道であった。

（以上）